緊急研究報告会報告

2011年5月29日、日本言語政策学会主催、緊急研究報告会「災害・震災時、情報弱者のための言語政策について考える」を開催（麗澤大学東京サテライトキャンパス）。

100名余のフロアー参加者を得て以下6氏による報告を得た。河原俊昭（京都光華女子大学）：「地方自治体の言語サービス」、中山慎一郎（日本手話研究所）：「聴覚障がい者への情報提供のあり方」、野沢和弘（毎日新聞論説委員）：「メディアと言語情報、知的障がい者と「やさしい日本語」、村岡英裕（千葉大学）：「地域被災時における外国人居住者の情報取得—浦安市の事例」、菊地浩平（国立情報学研究所）：「ろう者はどのようにして情報収集をしていたのか—その手段と伝播」、青山亨（東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター）：「インターネットによる多言語情報提供」。

東日本大震災時、言語マイノリティの情報受・発信への対応策とその課題を確認。地方自治体、インターネットを含むメディアによる、多言語（「やさしい日本語」や手話を含む）による情報提供の施策・活動の充実を平時から図る必要性を共通認識とした。
（文責 木村哲也）

日 時：2011年5月29日（日）13:00～16:30（会場・受付は12:30より）

場 所：新宿西口アイランドタワー 4F 4104号

麗澤大学東京サテライトキャンパス

大会プログラム

テーマ：災害・震災時、情報弱者のための言語政策について考える

12:30 会場・受付開始

13:00 総合司会：木村哲也（帝京大学大学院）

開会あいさつ

田中慎也（日本言語政策学会会長）

第Ⅰ部：これまでの活動・研究を踏まえて

13:05～14:35

司会：佐々木倫子（桜美林大学大学院）

1. 地方自治体の言語サービス 河原俊昭（京都光華女子大学）
2. 聴覚障がい者への情報提供のあり方 中山慎一郎（日本手話研究所）
3. メディアと言語情報、知的障がい者と「やさしい日本語」
野沢和弘（毎日新聞論説委員）

—休憩 15 分—

第Ⅱ部：今回の震災時、情報弱者に対する言語情報

14:50～16:20

司会：木村哲也（同上）

1. 地震被災時における外国人居住者の情報取得—浦安市の事例
村岡英裕（千葉大学）
2. 震災以後、ろう者はどのようにして情報収集をしていたのか：その手段と伝播
菊地浩平（国立情報学研究所）
3. インターネットによる多言語情報提供
青山 亨（東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター）

16:20～16:30 総括